

遺愛女子高演劇部が校内公演 「コロナ桃太郎」

遺愛女子高校演劇部「春の校内公演」が4月24日に遺愛学院講堂で開かれました。予想をこえて素晴らしい出来栄で、とても楽しませていただきました。高文連でも大いに期待できます。4月29日付函館新聞に、野口賢清記者が次のように書いて下さいました。

…桃太郎の物語に新型コロナウイルスを織り交ぜた「コロナ桃太郎」が披露され、新入生らを前に演劇の魅力が披露された。脚本はフリーの台本を選択し、製作者の許可を得て、部員たちが登場人物の個性を引き立たせるアレンジを加えた。桃太郎をはじめとした演者は皆フェイスシールドを着用し演技した。桃太郎がソーシャルディスタンス（社会的距離）を保つことにうるさかったり、イヌ、サル、キジを仲間にするのに、きびだんごではなくマスクを手渡したりと、物語のあちこちに新型コロナの影響がちりばめられ、笑いが起きるなど、観客を物語に引き込んでいた。

3年の畠山部長は「新型コロナの影響が続いている中で、こうして舞台を開き楽しんでもらったことがとてもうれしい」と笑顔。イヌ役を演じた同じく3年の松島さんは「練習してきたことをしっかりと表現できた。みんなで力を合わせ、いい舞台を披露できたと思う」と話していた。キジ役を演じた2年の木村さんは「一人でも多くの人に演劇の楽しさを伝えていきたい。次の目標は高文連」と意気込んでいた。



2021年5月6日

